

議会だより



撮影者：フォト集団オリーブ 中川 光 秋

冬の棚田

- 審議議案 臨時会、12月定例会について 2 ～ 4
- 一般質問 10人の議員が質問 5 ～ 11
- 議会日誌 12

臨時会

臨時会を11月30日に開催しました。
専決処分^①の報告2件をはじめ、
条例案件3件、予算案件1件が提案され、全ての議案を原案通り可決しました。

審議した主な議案

補正予算（一般会計第5号）
追加補正予算額 1億4653万円

子育て世帯臨時特別給付金
8314万円

坂手港浮桟橋改良工事費
5500万円

コロナ禍により、生活への影響が長期化する中で、子育て世帯への支援策として18歳までの子ども1人につき、5万円を支給するものです。

公用車購入費

581万円

家庭系ごみの収集体制の変更に伴い、資源ごみを月2回収集するため、収集用2トトラックを新たに購入するものです。



老朽化した浮桟橋

老朽化した坂手港浮桟橋の更新事業にあたり、県管理であった豊島家浦港の浮桟橋が寄贈されることとなったため、移設、補修および設置を行うための費用です。

福田町民プール解体撤去工事費および福武ハウス進入路整備工事費
226万円

福田町民プールの解体撤去工事の詳細設計を行ったところ、転落防止用の防護柵設置をはじめ、浄化槽の清掃、防災倉庫や卒業記念プレートなどの移動費用が必要となったことから、工事費を増額するものです。

条例の一部改正

- ・小豆島町職員の給与に関する条例
- ・小豆島町特別職の職員で常勤のものの給与および旅費に関する条例
- ・小豆島町議会議員の議員報酬および費用弁償等に関する条例

人事院勧告などに基づき、国家公務員および他の地方公共団体との均衡を考慮し、期末手当の乗率を引き下げます。

12月定例会 審議した議案

12月定例会を12月15日から16日まで、2日間開催しました。
条例案件3件、予算案件2件、その他案件3件が提案されたほか、発議1件がありました。提出された議案のうち、条例案件1件、その他案件1件は総務建設常任委員会へ付託し、慎重に審議した結果、全ての議案を原案通り可決しました。

補正予算

（一般会計第6号・第7号）

追加補正予算額

1億3641万円

主な補正予算の内容

防災行政無線修繕料
336万円

防災行政無線中継基地局となつている池田保健センターおよび太陽の丘の発電機が、経年劣化により不具合が生じたため、バッテリー交換などを実施するものです。

小豆島オーリーブス運営費負担金
3838万円

長引くコロナの影響により、オーリーブスの利用者が減少し、全ての路線において減収となつているため、交付金を活用し、補填を行うものです。

電算システム改修委託料
136万円

児童福祉法の改正による児童手当の制度変更に伴い、システム改修を行うものです。



瀬戸内国際芸術祭2022
準備費 2361万円

4月14日から開幕する「瀬戸内国際芸術祭2022」の作品展示会場の修繕をはじめ、スタッフTシャツ、案内看板、作品制作費など、開幕に向けた準備費用です。

公営・改良住宅修繕料
1158万円

経年劣化による漏水や外壁の爆裂など、修繕が必要な箇所が多発していることから、今後の緊急修繕に対応するものです。

ナラ枯れ防除委託料
106万円

県が9月に衛星写真で調査した結果、当初の見込みより被害量が約44立法米多かつたため、委託料を増額するものです。

職員人件費
▲4039万円

人事異動や期末手当の引き下げなどにより職員の人件費が減額となったものです。

子育て世帯臨時特別給付金 8010万円

岸田内閣総理大臣が、クーポンに替えて現金での給付を容認する意向を示したことから、子育て世帯への支援策として18歳までの子ども1人につき、現金5万円を支給するものです。

情報機器購入費

99万円

コロナや自然災害などによって小学校が臨時休校となる場合も、家庭学習が実施できるよう、貸し出し用のWi-FiルーターやWebカメラなどを購入するものです。



薫蒸剤を注入している様子



条例の一部改正

小豆島町消防団の定員、任免、給与、服務等に関する条例

小豆島町国民健康保険条例

消防団員の負担が増加している中、団員を確保することを目的に、報酬をはじめとした処遇などについて改正を行うものです。

産科医療保障制度の見直しなどにより、出産育児一時金の額について所要の改正を行うものです。

Q 現在の町の団員数は？

A 条例上の定数360人に対し、実際は約330人。

Q 団員報酬の支給先は？

A 国から分団ではなく団員個人に支給するよう指示が出ているため、直接団員へ支給する。

Q 出勤報酬は毎月計算して支給されているのか？

A 各分団が団員の出勤状況を消防署へ報告しており、半期ごとにまとめて支給している。



小豆島町消防団

議員発議

離島振興法の改正・延長を求める意見書

離島は、自然環境や海洋資源の利用など、重要な役割を果たしているものの、人の往来、生活に必要な物資等の輸送費用が他の地域に比べて多額であるほか、医療提供体制や産業基盤など、本土との生活環境の格差が課題となつていきます。

そのような中で、離島振興を図るために特別措置を講じることを目的とする「離島振興法」が令和4年度末をもって効力を失うことから、国へ法律の抜本改正と期限の延長を求める意見書を提出することとしました。



その他

公有水面埋め立ての適否

国道436号の道路整備に伴う拡幅用地として、西村の鬼ヶ崎からオリブユースホテル先までの水面を埋め立てることについて、町として異議がないことを香川県知事へ回答するものです。

Q 着手時期と工事期間は？

A 工事着手から3年の工事期間で埋立免許申請が提出されている。埋立免許の許可が下りてから工事に着手するが、構造物の作成等に相当の年月がかかる想定されており、工期が延長されることも考えられる。

指定管理者の指定

●施設名

小豆島町うちのみ漁師村

●指定管理者

(資)寺下広告社

●期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

指定管理期間の満了に伴い、改めて指定管理者に指定しました。



四国地区町村議会議長会表彰



藤本傳夫副議長と森口久士議員が、町村議会議員として20年在職し、功労があったとして、四国地区町村議会議長会から表彰を受けました。

総務建設常任委員会

本会議で提案された議案について、詳細な審査をするため、12月16日に総務建設常任委員会を開催しました。付託された議案は、次の通りです。

●小豆島ふるさと村条例の一部改正

小豆島ふるさと村のワインハウスを改修し、テレワーク拠点施設を新しく開設するにあたり、コワーキングスペースおよびミーティングルームの利用料金を新たに定めるものです。

●小豆島町道路線の変更

国道436号の交差点改良や地元自治会の要望により、草壁および苗羽地区の町道の起点・終点を変更するものです。

12月定例会 一般質問

今期定例会の一般質問を12月15日に行い、10人が登壇しました。
一般質問とは、議員が町民の代表として町政全般にわたって、事務の執行状況や将来の方針などについて質問し、説明や報告を求めるものです。

もり ひろあき
森 弘章 (5 P)

- ・遊休町有地のさらなる利活用を

はまぐち いさむ
浜口 勇 (6 P)

- ・サイバー攻撃への対策は万全か

おおかわ しんや
大川 新也 (6 P)

- ・老朽空き家管理への手助けを
- ・児童遊具設置公園の増設・整備は

しばた はつこ
柴田 初子 (7 P)

- ・がん検診等の受診の現状と取り組みは

み き たかし
三木 卓 (7 P)

- ・マイシティレポートの導入を
- ・ドライブレコーダー補助金の対象に貸与型も

やすい のぶゆき
安井 信之 (8 P)

- ・コンプライアンスが機能しているのか
- ・学校の校内整備は

ふじもと ただお
藤本 傳夫 (8 P)

- ・ため池や砂防ダムの管理体制は

もり たかし
森 崇 (9 P)

- ・草壁港～高松港航路確保の決意を
- ・危険空き家対策は
- ・学校統合の問題は

もりぐち ひさお
森口 久士 (10 P)

- ・町道の維持管理に関して
- ・観光案内標識の整備状況は
- ・農業の担い手確保は

なべたに まゆみ
鍋谷 真由美 (11 P)

- ・新入学時標準服などの購入助成を
- ・子どもの医療費18歳までの無料化を
- ・子どもの均等割軽減対象を拡大し国保税の引き下げを
- ・認知症予防のために補聴器の購入補助を



もり ひろあき 議員

質問 小豆島は、現在人口減少が著しく、住宅密集地においても空き家や管理の行き届かない遊休住宅地が多々見られる。
また、宅地に限らず町有地においても町の中心部において、利便性の高い場所でありながら、いつまでも遊休地として放置されており、それらは早急な対応が必要と考えるが。
①旧池田庁舎跡地の活用計画は。また、隣接するその前の手狭な町道亀山線拡幅等の整備計画は。
②旧内海庁舎跡地には、通学用駐輪場、東端には簡易歩道が整備されたが、大部分が放置されたままである。こども議会でも、再三要望があった遊具のある公園整備、また総合的には福田・坂手2路線のバス停、緑を配した休憩所などは考えら

答弁 旧池田庁舎跡地と消防跡地には本年度、歩行者が通行できるグリーンベルトを施工、前の町道亀山線については通学路でもあり、また、現在計画中の国道436号の道路整備が実行されれば、国道から小豆島中央病院へのアクセス道路としても今後、拡幅整備

れないか。以前、施政方針でも述べた、住んで訪ねて良い街づくりに、町の要衝、要の地なればこそ、島外来訪者目線での町の過疎地の象徴とならぬよう、早急な取り組みが急がれるのでは。
③県の管轄であるが、庁舎跡地から福祉会館前交差点までの国道拡幅等の整備計画が現在進行中と聞けるが、庁舎跡地の利活用にも関係するのでは。

が必要と考える。
旧内海庁舎前から牟礼病院までの国道436号の歩道整備計画については、県は令和元年度に現地測量を行い道路線形の計画を入れて詳細設計を行っている。
町の要望として旧庁舎跡地を利用したバスレーンの設置を要望、総合的には拡幅道路整備工事と併せた整備計画を作成中である。

町「国道436号線、拡幅工事と並行整備を図る」



旧内海庁舎(下)と跡地(上)

サイバー攻撃への対策は万全か

町「ハード、ソフト両面において万全を期す」



議員 小島 浩二

【質問】 10月末、徳島県つるぎ町立半田病院をサイバー攻撃が襲い、約8万5千人分の電子カルテが閲覧不能となり、新規患者の受け入れが停止となった。電子カルテ化したことで紙カルテが残っており、会計システムも使用できなくなった。ハッカー集団からのサイバー攻撃は世界中で行われているが、小豆島町の関連施設での対策は万全か。

【答弁】 サイバー攻撃により、業務が停止したり個人情報や機密情報は、職員のセキュ

の流出、紛失事故が発生する。本町でも情報セキュリティ対策をする責務があり、機器更新のハード対策と人的ミスを防ぐソフト対策を組み合わせて行う必要がある。サイバー攻撃は日々、高度化、複雑化を続けているので、時代に沿った見直しや改善が必要である。

ハード対策では、外部からインターネットを通じて、住民基本台帳ネットワークや、職員が使用しているパソコンにアクセスできないよう、回線を別々に分けて構築している。

ソフト対策では、職員のセキュリティ意識を高めるため、今後も各種研修への積極的な参加を促していきたい。

サイバー攻撃による被害を最小限に留めることができるよう、危機管理対策の一環として情報セキュリティ対策に万全を期す。



議員 大川 新也

【質問】 年々増えてきている老朽空き家や放置されたままの周辺樹木等は、所有者が対応しない限り、近隣住民は何もできずに困っている。町として何らかの手助けはできないか。

老朽空き家管理への手助けを

町「粘り強く通知を行い、適正な管理を促す」

【答弁】 老朽危険空き家等について、近隣住民から相談があった場合は、まず自治会長への相談をお願いしている。そこで解決しない場合は、職員が現地調査を行い、所有者へ通知している。

反応があつた場合は、管理のお願いや除却等の相談に応じ、反応がない場合は、危機感を覚えてもらうために現況写真を同封する等、粘り強く通知している。

児童遊具設置公園の増設・整備は

町「自治会が遊具を設置した費用に対し、補助を行っている」

【質問】 町内に遊具の設置された公園は何力所あるのか。当町も少子化の到来は感じるが、遊具設置公園を増設し、子育てしやすい環境をつくるのも大切では。

【答弁】 遊具を備えた公園は町内に28カ所ある。遊具については、

平成25年度から子育て応援モデル事業の一つとして、自治会が設置した費用に対して補助を行っている。

これまで6自治会がこの制度を利用し、小さな子どもが遊べる遊具を設置した。各自治会で協議の上、この制度を利用していただきたい。



制度を利用して整備した遊具 (安田植松児童公園)



しばた はつこ 議員

がん検診等の受診の現状と取り組みは

町「検診に対する意識を高め、受診率の向上を図る」

【質問】 新型コロナウイルス感染症が拡大されて以降、検診の受診を控える人が増えている。このままでは手遅れ状態になる人が増加するのではないかと懸念されている。町においても影響はあったのではないのか。現在の受診状況と今後の取り組みは。

がん検診希望調査を行うことで検診に対する意識を高め効果的な受診勧奨を行い、受診率の向上を図る。

【再質問】 令和2年度から進められている女性の命を守る乳がんの自己検診用グローブの配布状況と子宮頸がんのワクチン接種の現状は。

【答弁】 がん検診のグローブは、継続して実施している。子宮頸がんワクチンの接種実績は、10月末現在で令和2年度が3人だったが、本年度は57人となり増えている。来年度は他のワクチンと同様に、積極的な勧奨になるので、もう少し高まると思っている。



みき たかし 議員

マイシティレポートの導入を

町「導入自治体の動向を注視し、慎重に検討したい」

【質問】 マイシティレポートとは、道路の補修や改修部分について位置情報と画像データをスマートフォンから送信するアプリ。通常時は道路補修等の要望手段として、災害時には別アプリでの状況確認ツールとして、安心・安全なまちづくりに必要なアプリだと考えるが。

【答弁】 マイシティレポートは、近隣では高松市が道路補修や公園等の施設修繕の要望ツールとして導入している。災害時には情報収集機能を有する別のアプリも開発されている。導入自治体の動向を注視し、費用対効果の面からも慎重に検討したい。

＜スマートフォンアプリ「My City Report (マイシティレポート)」での通報イメージ＞



ドライブレコーダー補助金の対象に貸与型も

町「対象となるよう制度改正を検討している」

【質問】 土庄町では損害保険会社の貸与型も補助対象になっている。コストは割高になるが、その分サービスは充実している。当町においても貸与型を選択したい人がいるのではないのか。安全運転意識

の向上や交通事故の減少等を目的として導入された同補助金。貸与型も補助対象にする考えは。

【答弁】 当補助金においては当初の見込みより反響が大きく、12月14

日時点で224件の申請が出ている。貸与型のドライブレコーダーについては、機能面を見ても優れている部分がある。これを踏まえて、貸与型についても補助対象となるよう制度改正を検討している。

一般質問

自分で守ろう。自分のからだ。

今日からはじめる「子宮頸がん」対策



監修 東京慈恵会医科大学 産婦人科 講師
こころとからだの元氣プラザ 診療部長
(女性のための生涯医療センター-VIVI)
小田 瑞恵 先生
協力：財団法人 日本対がん協会



やすい のぶの 議員
安井 信之

コンプライアンスが

機能しているのか

町「法令、条例、規則等に従い、職務を遂行している」

〔質問〕 行政は、身内に甘い体質がある。コンプライアンスについてどのように考え、構築しているのか。

〔答弁〕 職員は、地方公務員法に規定されている通り、法令、条例、

規則等に従う義務があり、常々施策の根幹となる条例等を理解した上で職務を遂行している。

自治体のコンプライアンスとは、住民全体の奉仕者として、住民の福祉の増進を図ることを基本に業務を遂行

し、住民の信頼を得ることではないかと考える。

職員の資質向上のため、さまざまな研修等へ参加を促し、日々の業務でも、問題意識を持って取り組むよう指示している。



ふしもと ただお 議員
藤本 傳夫

ため池や砂防ダムの

管理体制は

町「災害等で土砂が堆積すれば、搬出路を確保し施工する」

〔質問〕 小豆島町内で土砂を浚渫するダムやため池は何力所あるのか。

〔答弁〕 浚渫する場合の搬出路は公道か私道か。また、いずれの場合でも運搬車が通れる道を確保しておく必要があるのでは。

に受け止める機能を有するため、一般的には浚渫を行わず、

者から町に相談があれば協議する。

学校の校内整備は
町「清掃指導計画で目標を設定し、年間を通して取り組んでいる」

〔質問〕 中学校の運動場には、草が生えており、学校の管理も教育の中に含まれると考えるが、教育方針としてどう変わってきているのか。

〔答弁〕 学校の校内整備や校舎の清掃は、各小・中学校の教育計画にお

いて、清掃指導計画で目標を設定し、年間を通して取り組んでいる。また、清掃活動を通して、協力や奉仕の精神を養うと目標を立てている。

現在、中学校の生徒数は約260人で、校舎内の廊下、トイレや教室も掃除すれば、運

動場に関わる人数が減っている。清掃は、今後も教育の一環として十分取り組むが、足らない部分は、PTAの校内整備作業、学校支援ボランティアの協力をお願いして、管理していきたい。

〔答弁〕 県の管理型砂防ダムは7基で、管理道は公有地である。管理不要型の砂防ダムは141基で、ため池は149池ある。県が新しく整備着手しているダムは管理型で、管理道を整備する計画である。

管理不要型の141基の砂防ダムは満砂状態で土石流を一時的

地権者に説明を行い、搬出路を借地し施工する。

浚渫工事の進入路整備は本体工事以外の施設のため、仮設道しか認められない。

管理道の確保に懸念があるため池については、管理



管理道の確保が懸念されるため池（上地区）

草壁港く高松港航路確保の決意を

町「町と島の魅力を高め、航路再開の
可能性を高めていきたい」



もり森 議員

【質問】私は政治と言うのは弱い人たちを守るのが一番と思っている。

高速艇が走らなくなった時、県にこのことを申し入れたが、担当職員に「何で3力所から高松に来ていのですか。土庄だけでいいでしょう」と言われた。説明すると「私は来るのばかり見ている帰るのを見ていなかった」と訂正されたが、認識の違いが大きく本当に驚いた。

【答弁】 島国にとって航路は、地域と地域をつなぐ道であり、人々

も不便だと思う。

細田議員が「航路も道路でしょう」と言ったことや、故川崎県議が「船は道だぞ」と言われたことも忘れられない。同じ名前のブルーライン道路は利用者が少なくなってもなくならない。

令和2年12月1日に公共交通政策基本法が改正され、令和3年1月17日には600人が草壁港に結集、若者も頑張った。8月には8000部のパンフレットが全戸配布され、この地域はすごいと思った。航路確保について改めて町の決意を伺う。

の移動や物流に欠かすことのできないものである。子どもや高齢者、障害のある人など交通弱者にとって身近な航路は不可欠である。

小豆島の6つの航路は住民生活と島の発展にとって重要と考えている。瀬戸内海を中心に位置する小豆島は古くから海上交通の要衝であり、様々な産業が育まれた。草壁高松航路は大切な指定航路であり、阪神航路復活のように、わずかでも可能性があると考えている。今後も町と島の魅力を高め、海の復権と全ての港の活性化を目指し、航路再開の可能性を高めていきたい。

危険空き家対策は

町「危険箇所の周知、注意喚起や安全教育を
徹底していく」

【質問】 前回、町だけではどうしようもないとの答弁だったが、安田小学校近くの通学路には、瓦が数十枚落ちて

いる建物もあり、風の強い日にはまさに危険空き家である。空き家は確実に増え続け、時間がたつほど解決が困

難になる。通学路なのに放置したままで良いはずがないと思うが。

【答弁】 老朽危険空き家の除去は、県の補助制度にのっとった事業で、現行の制度では住宅以外の建物は補助の対象外である。危険な

建物であることは承知しているが、所有者に通知するなど、粘り強く適正管理をお願いしていきたい。通学路の安全対策については関係機関と共に点検し、危険箇所の周知、注意喚起や安全教育を徹底していく。

学校統合の問題は

町「児童数の推移を見ながら十分検討し、
しかるべき時期に判断したい」

【質問】 私は最初、統合反対だったが、ある人に相談に行くと「君が安田小学校に入る時、何人入ったのだ」と聞かれ「88人だった」と言う

われた。ここまで来ると、統合問題は放置できないと思うが。

【答弁】 町では、4小学校があり、児童間の距離を十分に取っての教育ができています。仮に1校でコロナの感染者が確認されても、他校は通

常通り授業が可能である。小学校は地域の核であり、地域で子どもを育てる観点からできるだけ存続させたいという思いはあるが、児童数の推移を見ながら十分検討し、しかるべき時期に判断したい。

町道の維持管理に関して

町「緊急性や地域バランスを考慮し取り組んでいく」



議員 森 久士

町「緊急性や地域バランスを考慮し取り組んでいく」

【質問】路線によって、路肩や路盤が相当傷んでいる箇所が見受けられる。大規模修繕が必要にならないよう順次対応すべきでは。

【答弁】町道改良が必要な箇所があることは理解しており、用水路の転落防止対策などの交通安全対策も行っている。かなければならない。地元からの要望箇所や継続的な取り組みで道路改良を行っていくためには、緊急性や地域バランスも考慮した優先順位をつけ、限られた予算で最大の効果が発揮される工夫を念頭に置いて取り組む必要がある。

目印が少ない場所は、何が出来るか検討する。



傷んだ町道 神懸線

観光案内標識の整備状況は

町「来年度から計画的に改修を進めていく」

【質問】一部の改修や撤去等は実施しているが、現在もまだ改修できていない看板があるが、いつまでに改修できるのか。

【答弁】小豆島町観光協

農業の担い手確保は

町「もうかる農業を実現させ、魅力を高めたい」

【質問】農業所得の増大が欠かせない。

本町の農地は狭小である。担い手確保にもなり荒廃農地を受け入れできる農業法人がでないか。

また、比較的天候の影響を受けにくく、安定した収入を得るには施設栽培が必要と思うが、支援の考えは。

【答弁】このままでは、本町の農業は衰退が加

議会内に観光標識検討会を立ち上げている。本年度は、観光標識の改修方法や表示内容、改修箇所等の協議を進めており、新たに設置する観光標識は、景観

に配慮し、インバウンドにも対応できるよう、英語表記を加えた標識にしたい。

令和5年度には、内海地区の改修を計画している。

速化し、農村集落の維持そのものが困難となる可能性がある。新規就農者や認定農業者等、多様な形で農業に関わる人や組織を集落単位で一体的に育成、確保していく必要がある。

果たしており、引き続き集落営農の組織化、法人化の推進に積極的

農業者が将来に明るい展望を持って農業経営を行うことができるよう努めていく。

集落営農を将来にわたり安定的に運営していくためには、法人化を進めることも検討すべきと考える。集落営農は、本町の農業、農村を担う重要な役割を

農業を担う人材を将来にわたり確保するためには、もうかる農業を実現させ、職業としての農業の魅力を高めていく必要がある。

施設栽培は、本町のように大半が狭小農地の地域で、重要かつ魅力ある分野と捉えている。

【再質問】新しく施設を造る場合に、町としてどう取り組むのか。

【答弁】十分に情報収集しながら、農家の方が希望する内容を情報提供していく。



なべたに まゆみ 議員
鍋谷 真由美 議員

新入学時標準服などの 購入助成を

町「他の子育て支援策と

あわせて検討したい」

【質問】 小学校入学時に

おける標準服、体操服などの購入金額は約3〜4万円で大きな負担になっている。子育て支援策として、新入学用品を購入するための助成を行って保護者の負担を軽減してもらいたい。

宇多津町は、一人1万5千円を補助している。

【答弁】 経済的理由で就

学困難と認められる児童の保護者に、必要な費用の給付（小学校入学時5万1060円）を行う就学援助制度を利用していただきたい。

また、今年度から子育て応援給付金として、満1歳になるまで月額5千円を支援している。それらの子育て支援策とあわせて検討したい。



標準服、ランドセル等の負担は大きい

子どもの医療費18歳までの無料化を

町「総合的判断の上、実施について検討したい」

【質問】 子育てにかかる

経済的な負担は子どもの年齢が上がるほど大きくなる。中学校卒業までの医療費の無料年齢を、18歳までに引き

上げることを求める。

全国では3割超の自治体、県下でも普通寺市、直島町、琴平町が引き上げている。

【答弁】 対象年齢の引上

げは、町の財政状況や他の施策の優先順位など総合的判断の上、実施について検討したい。

子どもの均等割軽減対象を拡大し

国保税の引き下げを

町「国の施策で実施されるものと考える」

【質問】 国保税の未就学

児の「均等割」を5割軽減する国の制度が来年度から予定されていることは、大きな成果だが、さらに、年齢を引き上げることが必要ではないか。独自の上乘せ制度の創設・拡充

で、国保税の負担軽減を求める。

また、引き続き国に対してさらなる対象範囲の拡大、国庫負担金の抜本的増額を求めている。

【答弁】 町独自に画一的

な減免基準を設けて減免することは適当ではなく、国の施策で実施されるものと考ええる。軽減制度の拡充拡大を含めたさらなる財政支援を町村会などを通じて要望したい。

認知症予防のために補聴器の購入補助を

町「国で制度化されれば検討したい」

【質問】 加齢性難聴が日

常生活を不便にするだけでなく、社会活動の減少やコミュニケーションを困難にし、認知症の危険因子にもなると指摘されている。

2017年イギリスの医学雑誌ランセットの認知症予防、ケアに関する国際委員会によれば、特に予防可能な認知症リスクが約35%で、そのうち中期の難聴が9%を占め、難

聴を放置する影響が大きいことが示唆されている。補聴器の使用は、認知の低下を防ぎ、社会参加を広げるための必需品と言える。

【答弁】 今後、国で制

度化されれば検討したい。国、県に向けて要望を行うとともに、生活支援や介護予防、健康づくり施策の充実を図っていききたい。

教育民生常任委員会

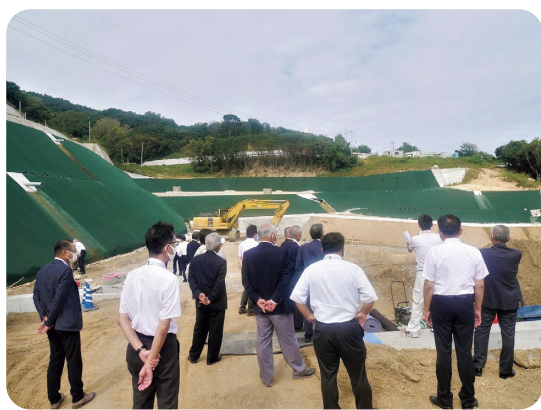
10月12日に教育民生常任委員会を開催しました。

一般廃棄物最終処分場の工事状況、地球温暖化対策、家庭系ごみの収集体系の見直しについてを議題としました。

現在、月に1回収集している資源ごみを、令和4年度から月に2回収集すると説明がありました。

また、会議終了後には現地へ移動し、工事の進捗状況を確認しました。

ごみの適正な分別を呼びかけ、施設の長寿命化を図っていくとのことでした。



甲府市議会行政視察

11月9日に山梨県甲府市議会、会派「創政（せいせい）こうふ」が、移住・定住施策についての行政視察のため、来訪されました。

小豆島町の移住・定住施策の担当課である住まい政策課が、お試し移住体験施設や空き家バンク制度など、町内の空き家を活用した事業の現状、課題について説明しました。

また、令和4年度からの取り組みとして、小豆島ふるさと村ワインハウス内に設ける、テレワーク拠点施設についても説明しました。



議会日誌

10月～12月までの主な議会活動についてお知らせします。

12 月	11 月	10 月
8 日 議会運営委員会	6 日 小豆島町戦没者追悼式	5 日 広報編集特別委員会
15 日 第4回定例会（1日目）	29 日 小豆郡町議会議長会定例会	11 日 広報編集特別委員会
16 日 総務建設常任委員会	30 日 議会運営委員会	12 日 議会運営委員会
第4回定例会（2日目）	第3回臨時会	第2回臨時会
	総務建設常任委員会	教育民生常任委員会

お知らせ

藤井孝博議員から、一身上の都合により議員辞職願が提出され、令和3年11月30日をもって辞職することを議長において許可しました。

編集後記

▼間もなく節分を迎えます。風物詩の豆まきは、季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立てて追い払う儀式です。

▼世界に広まったスペイン風邪もこの時季に第1波を迎えました。世界大戦中に中立国で情報統制のないスペインから感染拡大の情報がもたらされたためこの名で呼ばれています。

▼抗生物質やワクチンもなく多くの感染者が発生しましたが、集団免疫の広まりなどもあつて3年で終息しました。

▼現在のコロナ禍も3年目に入りました。さらなるワクチン接種でいよいよ収束から終息への期待が高まります。

▼皆様には風邪など召されませぬよう、お元氣にお過ごしください。

大下 淳記

本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4492 香川県小豆郡小豆島町片城甲44-95 TEL (0879) 82-7060 FAX (0879) 82-7061
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp